

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 7 号 2 0 2 3 年 6 月 2 0 日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993
中部学院大学短期大学部 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

本学創立記念礼拝「本学の隅の親石」(マタイ福音書 21:42)

八木橋 康広 (中部学院大学短期大学部 宗教主事)



5月14日は、本学（中部学院大学・同短期大学部）の開学記念日であります。

これについて10分以内で信仰的意義を説き明かして皆様と共有するのは、浅学で

信仰の浅い私には不可能と思われました。しかし幸いなことにこの日を制定する上で大きな指導力を発揮されたと拝察する片桐孝先生が自ら、その経緯とエッセンスをまたとない明確でしかも含蓄深い言葉で解き明かされ、それが「知識のはじめ」の巻末資料（資料2 片桐孝のエッセイ）に収められておりますので、そこから要点を紹介申し上げて、今日の聖書の箇所により信仰的意味を取り出し本学開学記念日の霊的意味と糧を分かち合えるひと時でありたいと願います。

「平成9年（1997年）岐阜済美学院に理事長片桐武司の強い決意と周到な企画により中部学院大学が設置され、薫風かおる5月14日に開学式が盛大に行われた。この日は創立者片桐龍子の生誕日でもあった。龍子が今から80年前、岐阜市内の溝旗神社の一隅で数名の女生徒を集めて創設した岐阜裁縫女学校が岐阜済美学院の基である。（中略）龍子は女性の教養としての知識・技芸を教えるにとどまらず、日本婦人として自立するために精神教育に力を入れた。幼い時より両親から受け継いだ国家神道の信仰は、龍子の精神的支え

であった」（前掲書61p。西暦は筆者が加筆。）

つまり本学院の創立者である片桐龍子先生は、熱誠の神道家でもあり神道主義を学校の「親石」（建学の基）とされたのであります。しかし他方では、敬虔なプロテスタント・キリスト教徒でもあった奈良女子高等師範学校（現奈良女子大学）の越智キヨ教授とも深い同志の絆で結ばれており、自らの後継者である長男の登喜夫さんの縁談を依頼されたのであります。越智教授の紹介で山本孝さんと登喜夫さんのお見合いがあり、そこで孝さんは彼の女学校にかける決意の誠実さ、また「その心の純情さに私は胸を打たれ」（61p）、こうしてお二人は結婚され、孝さんは龍子先生の嫁となられたのであります。

しかし日本は翌年、対米英全面戦争に突入しました。軍部や右翼勢力はこの戦争を正当化し国民の戦意を煽り立てるために神道を政治的に利用しました。それに批判的な人たちは「非国民・国賊」の烙印を押されて世間から迫害され、国家権力によって弾圧されたのであります。龍子先生は祖国が「真の神の国であること」を熱誠信じるがゆえに、神道が邪悪な戦争の道具として利用されることに敢然と異議を唱えました。その結果、当時絶対的な権力を持つ特高警察にあらぬ容疑をかけられて拘束され取り調べを受けるという酷い仕打ちを受けたのであります。

しかしその3年後には、日本は国民の大量死と

国土の壊滅的な破壊によって無条件降伏となりました。軍部や特高警察の権力にとって代わったのは米国を中心とする連合軍総司令部（GHQ）でした。GHQは、神道を日本の軍国主義と侵略戦争の精神的根源とみなして、神道家を追放しました。そこで龍子先生もその同類とみなされて追放の憂き目にあい、以後は公の場に復活することはありませんでした。そのうえ最愛の息子で後継者の登喜夫先生は過酷な戦時体制下での学校経営の過労から病を得て終戦の3か月前に病死されていたのであります。

こうして学校経営者と後継者を一挙に失った本学院は、空中分解の危機に陥りました。この危機を打開するため登喜夫先生の妻である孝先生がその跡を継がれました。孝先生は持ち前の知恵と勇気と行動力で、禁止された神道主義に代わって、自らの信じるキリスト教主義に建学の精神を転換することで新生日本、新生岐阜県教育の先駆けとなられたのであります。以後、本学は戦後の様々な困難を乗り越えて、新制高校、幼稚園、短期大学の創設となり発展を続けたのであります。そしてついに後継者の片桐武司先生の手によって最高学府の4年制大学の開学となり、教育機関としての完成形態にいたったのであります。その開学記念日を片桐龍子先生の誕生日におかれたのであります。

ここには嫁で後継者となった孝先生の次の思いが込められていると拝察する次第です。「今、娘の夫、武司が理事長に就任し、私は、名誉理事長の栄誉を与えられ、至福の限りである。それに引きかえて龍子は、愛する祖国は戦いに破れ、一人息子は天に召され、大正7年（1918年）創立以来、28年間、心血を注いでわが生命のように育ててきた学校を、主義、主張のちがう嫁の手に譲り、自らもまた教職を追放された。あの頃、老いゆく身の侘しさは限りないものであったろう！と、今になって痛感する」（前掲書64p）。

このような孝先生はじめ現理事長、学院長先生の熱い思いが本学開学記念日の理由となっているとすれば、それはまさに過酷なこの世の現実によって本学院の「捨て石」となった片桐龍子先生が「隅の親石となった」（石造建築で最後に隅に置く押さえの石となった）ということであると思います。これは孝先生、理事長・学院長先生の「信仰」を通して主なる神が実現されたものと信じているのであります。

2023年の本学創立記念礼拝にあたり、このような本学の一員でありますことに思いを致し、そこに喜びと誇りを感じるものでありたいと思います。

知らずに受けてたカルト勧誘

柳本 伸良（日本基督教団 華陽教会 本学非常勤講師）

私が受け持つキリスト教概論の授業では、毎年最初の方で、破壊的カルトの偽装勧誘について話をします。破壊的カルトとは、金銭的・身体的・精神的被害をもたらすような、個人の人権を侵害し、公共の福祉を破壊する反社会的集団のことで、被害者を加害者に変えていく構造を持ったグループです。

多くの学生は、カルトと言えば「怪しい宗教」というイメージを持っていますが、過激派テロ組

織などの思想・政治カルト、マルチ商法や信者ビジネスなどの商業カルト、自称カウンセラーや自己啓発セミナーなどの心理療法カルトに並び、霊視商法や靈感商法などを行う宗教カルトが存在しており、あらゆる分野のカルトが活動しています。

また、宗教カルトも新宗教や異端のグループだけでなく、いわゆる正統的な教義を教える教会にも、金銭トラブルや性暴力などを引き起こす「カルト化した教会」があります。大学キャンパスで

正体や目的を隠して、ボランティアや異文化交流、英会話教室などの名目で偽装勧誘をする団体も多いです。「怪しい宗教」だけ警戒しても意味がありません。

もちろん、キリスト教系以外にも、仏教系や神道系の宗教カルト、情報商材や闇バイトなどの犯罪に手を染めさせる商業カルトが、どの学校でも、何らかの形で学生に接触してきます。詐欺師と同様、最初から怪しさマックスで近づくメンバーはほとんどいません。たいていは、組織を信頼しきった優しく真面目な人たちが、善意で接触してきます。学生だけでなく、教師や職員や保護者の中にも、気づかずに接触を受けている人がいます。

特に、最近では Instagram、Twitter、Facebook などの SNS を用いた偽装勧誘が活発です。同じ趣味や関心を持っているように装って仲良くなると、ターゲットの投稿にコメントを送り、「い

いね」をつけて、シェアに協力してきます。好感度が上がってきたところで、メッセージやダイレクトメールで連絡先の交換を持ちかけます。

その後、Zoom を使ったビデオ会議でセミナーを受けないか誘ったり、直接会ってカルトのフロント組織やダミーサークルへ入会させたり、2泊、3泊、7泊の合宿へ次々と参加させられるようになります。メンバーは皆親切で、今までにないくらい、真剣に悩みを聞いて、夢を応援してくれます。

そうして、すっかり信頼関係が築かれてから、半年後、数年後に、初めて組織の正体と目的を知らされます。その頃には、もはや仲間を疑うことはできません。今度は自分が勧誘する側に回っていきます。このような正体や目的を隠した偽装勧誘があることを、学生、教師、職員、保護者が理解して、みんなで被害を防ぐことが重要です。

本学宗教主事に就任して

八木橋 康広 (中部学院短期大学部 幼児教育学科 教授)

本年度より本学短期大学部宗教主事に就任した八木橋康広と申します。私はこの3月まで岡山県の高梁(たかはし)市という中国山地の山壁にあるような小さな城下町の小さなキリスト教会の牧師を35歳から60歳まで25年間務めました。今の時点で振り返ってみますと、信徒の方々はそれぞれの心の中にいくつもの「世界」やいくつもの「宇宙」をもっていて、その時々に応じてその核のようなところに深く関与するのが牧師としての職務だというふうに理解しておりました。それによって私の身体は中国山地の「すり鉢の底」のような狭い盆地の町にありながらも、私の魂は実に多くの世界や宇宙を体験させていただいたように思います。つまり信徒の「生き死にの現場に立ち会う」という仕事を通して、彼らの魂の中に宿る「並外れて偉大な宝」の片鱗を私も頂いたと感じております。

60歳という節目の年齢での退任が決まり、その後本学院の教育職員の話があり、この度それが実現しました。これはまったく予想外のことでした。ここにはまずは人智や人間の意図を超えた力が働いていると信じます。それと同時に、ここまで私の人生を導いてくださった多くの方々の手によるものと信じます。キリスト教では、このような人間の力とそれを超えた運命的な力をすべて含めて「神の導き」と言っているのだと思います。

本学宗教主事に就任出来たことは神の導きであり、本学の皆様との出会いを稀有な宝と信じ、これまで多くの方々から頂いた見えざる宝を特に学生の方々に少しでも伝えることが出来るように努めて参りたいと思います。



2023年度 宗教講演会

『「隣人」愛からの卒業』

名古屋学院大学 スポーツ健康学部 准教授 澤村 雅史 先生

日 時：7月3日(月) 11:10~12:20
(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス 11301 講義室

中部学院大学の皆さん、こんにちは！名古屋学院大学で基督教の授業を担当しております澤村と申します。所属はスポーツ健康学部ですが、スポーツはぜんぜんダメです(笑)。

出身は青森ですが、小学校から大学までを北海道の小樽で過ごし、その後一般企業勤務を経て、牧師を志し関西学院大学神学部に学び、福岡県で8年間の牧師、そして広島女学院大学での教員としての14年を経て、この4月から初めて中部地方に参りました。

皆さんの大学には『神を畏れることは知識のはじめである』(旧約聖書「箴言」第1章7節より)という素晴らしい建学の精神がありますが、私の本務校である名古屋学院大学にも『敬神愛人』(新約聖書「マタイによる福音書」第22章36~40節より)という建学の精神があります。神を敬い畏れるところが共通していますね。自分自身を超えたところにいらっしゃる神なる存在を認めることで、私たちは不遜な高慢からも不必要な自己卑下からも解放されることが出来ます。そこで生まれる真の謙虚こそ、人を愛する原点となり得ることを聖書は教えています。

しかし聖書が教えるこの隣人愛こそ、ロシアのウクライナ侵略を含め、世の中の全ての戦争や差別を生み出してきたと言ったら、みなさんは驚かれますか？もう少し正確に言うと、聖書が教えているはずの無限定の愛を、人が自らの基準に押し込めてしまうところから、全ての醜い争いと差別が生まれてくるのです。

新約聖書「ルカによる福音書」第10章25~37節に記された有名な『善いサマリア人のたとえ』を通して、イエス・キリストは限定的な「隣人」愛を乗り越え、開かれた「隣人愛」へ向かうことを私たちに教えています。今回いただいた機会を用いて、皆さんと『「隣人」愛からの卒業』について考えてみたいと思います。お会いするのを楽しみにしています！4649♪

◆プロフィール

1967年、青森県青森市生まれ、小学校~大学(小樽商科大学)までを北海道小樽市で過ごす。

川崎重工業株式会社勤務(建設機械事業部 経理・資材契約・海外営業)を経て、1997年に関西学院大学神学部に編入学。2001年同神学研究科博士前期課程修了。2016年広島大学総合科学研究科博士後期課程修了(博士(学術))。

2001年4月より8年間、日本キリスト教団春日東教会(福岡県春日市)主任担任教師。2007年より3年間は九州教区主事としても働く。はこぶね幼稚園(福岡県糟屋郡)理事。

2009年4月より2023年3月まで、広島女学院大学に教務教師(牧師)として勤務、2010年4月より宗教部長(2012年よりチャプレン、2018年度より大学宗教委員長に改称)。2011年度より2016年度までボランティアセンター長。2021年度よりIR委員長。人文学部・人間生活学部共通教育部門教授。2010~2016年度、エリザベト音楽大学非常勤講師(人間学担当)。2022年度より岩国YMCA国際医療福祉専門学校非常勤講師。

2023年4月より、名古屋学院大学スポーツ健康学部准教授。

専門研究領域は新約聖書学(主にマタイ福音書釈義)。西日本新約聖書学会理事。

IAMSCU(メソジスト関係学校国際同盟)世界大会2014実行委員長。

2011年4月より2019年3月まで広島県社会福祉協議会ボランティア活動・福祉教育推進委員(2013年4月より委員長)。

2017年度より2023年3月まで同評議員選任・解任委員。

2014年4月より2023年3月まで広島YMCAチャプレン。2010年より日本YMCA同盟地球市民育成プロジェクトに参加、2013年度研修よりリソースパーソンに加わる。2014年8月より日本YMCA同盟ミッション委員。2022年4月より2023年3月まで広島YMCA常議員。

著書『福音書記者マタイの正体 その執筆意図と自己理解』(日本キリスト教団出版局、2016年)ほか。